

巻頭写真 東京都中里遺跡の縄文時代後半の埋没林 (The buried forests of the late Jomon Period at the Nakazato Site, Tokyo)

中里遺跡は東京都北区上中里から田端駅構内の東京低地縁辺に位置する縄文時代以降の複合遺跡である。発掘調査は東北新幹線施工事に伴って1983年6月から1984年10月まで実施され、自然科学関係の調査の成果は1987年に2冊の報告書として刊行された。その後編には縄文時代以降の植物化石群が記載され、植生史が論じられている。注目すべきことは、縄文時代後・晩期の埋没林を含む木本泥炭層の広範囲の分布が確認されたことである。写真1はC地区とされた施設域を上中里駅のすぐ東から南東へ眺望したもので、各所に取り残された埋没林が見られる。写真2は埋没林の接近写真である。また写真3は埋没林を含む木本泥炭層の断面で、直径5cm前後の木材片の密集がよく分かる。埋没林はトネリコ属が優占し、カエデ属・トチノキ・ムクノキ・カツラなど落葉広葉樹を主とすることが明らかになり、縄文時代後期前後において低地に森林植生が成立していた地史的意義を問い掛けるきっかけとなった。

文献 中里遺跡調査団. 1987. 中里遺跡2—遺跡と古環境. 2. 377pp. NOSHIO, S. & SUZUKI, M. 1989. Forest reconstruction from fossil wood assemblages in prehistory. *The Quaternary Res.*, 27: 313—329.

(辻 誠一郎 Sei-ichiro TSUJI)

